



光多 長溫

都市化研究公室理事長

横浜市のマンションにおける建物杭のデータ偽装が大きな問題となつてゐる。また、全国の他の工事事例、公共施設にも波及し、問題の根深さをうかがわせている。居住者、利用者の不安も大きく、一刻も早い実態調査と原因究明が望まれる。

て、チェックアンドバラ  
ンスを図るという考え方  
に対して、わが国においては、元請業者が各種工  
事一式を発注者から直接請負、工事全体を統括す

ment) 方式がある。これは、19世紀初めに土木工構造物監理が明確でなかつたアメリカで進められたものであり、現在でも欧米で幅広く採用され

長1563㍍)を例にとって、見ることしたい。CM方式を採用した理由であるが、県道整備を地元市で行うこととなつ

第一に、クマタカの保護に適した工事方法、スケジュールを選定し、更に、住民がカメラで孵化状況を見られるようにしてお

式における行政、住民、工事関係者が一体となつた感激的なセレモニーにも現れた。もちろん、前述のようなスペックの相違、施工データ改ざん等の問題は起りようもない、

前述の工事監理のあり方に関するして、ピュアC.M.方式（アツトリスク方式に対する概念）を採用した兵庫県知見八鹿線道路整備事業（道路延長2.7

ンセル工事においては、地盤地質に適した工事方式、廃土処分の方法等の提案を行った。本C.M.方式において、最も効果があつたことは、次の点である。

このうち、当該方式の意義を認めて共同関係が構築されてきた。これは、竣

工事監理とCM方式

工事関係者間の責任分担がどのような契約になつてゐるか、詳しくは定かではないが、本件は、

るヤネット(General Contractor) 体操が主流だね。

てはいる。わが国においても、1998（平成10）年頃に盛んに検討されたが、その後、元すればみて

たが、市には工事発注に必要な技術者が量的・質的に不足していたこと、

第二に、CMのスタッフが役所または現場に常駐して、住民への工事説明会・工事見学会を開く

つかの課題があることも事実である。一つは、行政サイドの理解と実施能

かではないか。本件は、  
請け負った建材メーカー  
の責任問題だけでなく、  
わが国の建築・土木全般  
にかかる根本的な問題を  
含んでいる。

今回の事態に対して  
検査の強化等が主張され  
ているが、竣工後に建物  
内部のスペックや、まし  
てや杭打ち等の地下構造  
を含めてどのようにチエ

CM方式は、CM受託企業(CM=Construction Manager)が、発注者の側に立って、設計

当該地域には希少種後進であるクマタカが営巣していること等であった。まず、公募プロボーザル方式によりCM<sub>i</sub>を選定し、これを監督、助言す

読時会 工事見学会を開催し、工事進捗状況を常時情報公開した。

力である。第二にCMの育成である。現状では、CMの能力を持つ事業者は極めて少ない。第三に、ゼネコンサインの理解である。ゼネコンでは

建築・土木工事における設計、工事監理、施工の体制のあり方については、これまでさまざまな議論がなされてきた。これらを別個の主体にし

今後、  
あらゆる検討する必要が  
ある。  
施工の区分別す  
る方法の一つに、CM  
(Construction Manager

・発注・施工の各段階において、設計の検討や工事発注方式の検討、工程管理、品質管理、コスト管理などの各種のマネジメント業務の全部または

るための委員会を設置した。C M r は、詳細設計業務、明かり工事、トンネル工事等の発注に際し、発注時期、発注仕様の検討を行った。さらに、ト

安の方式を提案し、結果的にCMrの受託費用を含めても全体として工事費は縮減された。

なくなるとの議論さえある。しかし、今回のように不祥事を機会に望ましい工事スキームの検討を行つことも必要ではなかろうか。